

秋川溪谷

11月26日 (火) 小雨 のち 曇り

- ★ 前日は最高気温が 22℃となり、汗ばむほどの暖かな晴天であったが、この日は最高気温が 10℃にも達しない寒さで小雨が降っていた。「曇りで時々小雨」という予報だったせいか、中止になると思った人もなく 10 名が参加した。午前中は小雨が降り続いたが、午後には雨が上がり、風もないので散策には全く支障なかった。霞のかかった里山の風景は水墨画のようで、これはこれで素晴らしい散策となった。
- ★ 田無駅を 8 時 40 分に出発、武蔵五日市駅に着いたのは 1 時間後の 9 時 39 分である。10 時発のバスに乗り 10 分ほどで十里木に着いた。十里木の停留所から 3 分ほど歩くと温泉施設「瀬音の湯」への入口があり、そこを下って行くと石舟橋がある。石舟橋は秋川に架かる橋で、橋のすぐ下に大きな岩があり、そこで秋川は大きく左へ向きを変えている。川の水は大きな音を立てて流れ下って行く。「瀬音の湯」の名前の由来である。この石舟橋一帯が秋川溪谷随一の紅葉の名所である。小雨に煙る山や川を背景にモミジの紅、イチョウの黄、杉の緑が夢幻の世界のようであった。



- ★ 石舟橋から十里木へ戻って大岳鍾乳洞へ向かう道を 200mほど行き、落合橋を渡った先で右折して林道に入る。バスで通った檜原街道は秋川の右岸を通っているが、林道は左岸を通っている。車も人も殆ど通らない静かな道である。小暗い杉林を通して秋川の流れが見え隠れし、紅

葉で明るく輝いているように見える。静かな林道を 40 分ほど歩くと星竹橋を渡って右岸に戻り、戸倉に着いたのは 11 時半頃であった。

- ★ 最初の計画では、河原のキャンプ場で弁当を食べることにしていたが、台風 19 号の影響で河原が荒れて、キャンプ場はどこも閉鎖されていた。そこで「小春日和」という蕎麦屋を見つけて予約しておいた。ネットで調べて電話で予約したので、どんな店かよく分からないまま予約したのだが、これが「大当たり！」であった。古民家を改装した洒落た内装の店で、芝生の庭の周りは真っ赤なドウダンツツジの垣根で囲まれている。天婦羅そば、鴨南蛮そばなどを注文したが、そばも天婦羅も量がたっぷりあり、しかも新そばなのでしっかりとした歯ごたえとそばの香りが実に良かった。ここの親父が実に面白い人で、店の主人の友人だそうだが、土日だけ手伝いに品川から通っているという。この日は火曜日であったが我々 10 人が来るということで特別に手伝いに来ているという。この親父との会話が面白くこの店に 1 時間半も滞在した。



- ★ 「小春日和」を出て 5 分ほど歩いた後、檜原街道に戻ろうと思ったら通行止めになっていた。台風 19 号で道路が崩落したそうで復旧工事を行っていた。そのため大回りをして久保川原橋、新久保川原橋を渡って沢戸橋へ出た。途中崩落した道路にブルーシートがかけられているのが見えた。有名な「黒茶屋」の横を抜けて西小中野のバス停近くから秋川沿いの道へ降りた。この付近の河原も紅葉の美しいところである。佳月橋を渡って畑中の道を登って行くとやがて古刹「広徳寺」に着いた。



- ★ 広徳寺は室町時代の応安 6 (1373) 年に創建された臨済宗建長寺派の寺である。重厚な造りの山門をくぐると二本の大銀杏がある。まさに黄葉の真っ盛りで、半分ほどはまだ木に残っているが、半分は落葉して地面が真っ黄色でじゅうたんを敷き詰めたようにパッと明るく輝いている。本堂の裏庭はモミジの紅葉が鮮やかである。訪れる人も少なくひっそりとしていて、別世

界に紛れ込んだようである。境内には高さ 24.5mの「カヤノキ」と 19.1mの「タラヨウ」の大木があるが、いずれも都の天然記念物に指定されている。

★ 広徳寺から秋川に戻り、小和田橋を渡って秋川左岸を下流に向かって歩く。「あゆみ橋」という人道橋を渡ると秋川橋河川公園であるが、ここまで来ると川幅も広く、流れもおだやかになる。川中には白鷺やゴイサギが羽を休めていたり、カモの家族が泳いでいたりして長閑な眺めである。ここでも台風 19 号の被害は大きく、河川公園内のアスファルトの遊歩道は至るところで破壊されていて立ち入り禁止となっている。秋川橋を渡り、95 段の階段を登ると目の前が武蔵五日市の駅であった。時間は午後 3 時、3 時 9 分の電車に乗り、4 時頃田無駅に戻ってきた。



石舟橋にて



広徳寺にて

お二人から俳句を頂きました

黄落や古刹参道埋めにけり 志賀 勉
五位鷺のじつと佇む冬の川

秋川の吊橋映える冬の峰 辻 直邦
里山に銀杏落葉の古刹かな

参加者 奥野和雄、小島恕雄夫妻、志賀 勉、辻 直邦、原田一彦、水野聡夫妻、
 臼井静江、中村仁美 以上 10 名

写真と文 小島恕雄